



冬場の栽培管理【追肥・排水対策】

追肥

麦栽培では、収量と施肥はとても深い関係にあります。施肥設計で分施肥体系を選択されている場合には、追肥を12月中旬から下旬にかけて「化成肥料201」を10aあたり10kg施用してください。茎数が多くて葉色が濃い場合は、窒素分が穂肥施用前に切れる恐れがあるため遅らせて施用し、逆に茎数が少ない場合は追肥を早めてください。

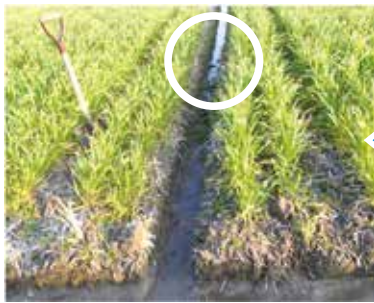
一発体系(省力型)の肥料をお使いの場合は、追肥の必要はありません。

排水

圃場状況を確認し、中央部分の葉色が黄色化しているような場合は、湿害が起きていることが考えられます。分けつ期に湿害を受けると収量が低下するだけでなく、根の伸長も不十分となり、品質低下に著しく影響します。

今一度、明きょ(排水路)が外部の排水路と連結しているかどうか確認してください。作業等で埋もれていたら、補修、管理を行ってください。湿害は影響が大きいので、必ず対策を講じましょう。

① 排水路の奥に停滞水がある状態



ポイント 排水路の確認

①②の状態
停滞水がある場合は、
溝さらえ作業を
実施してください。

② 排水路に停滞水が常にある状態



令和3年度 水稻用 生産資材申込開始

JAでは、「農家組合員の所得増大」を図るため、省力施肥肥料や大型規格農薬のラインナップの充実により、省力・低コスト資材の普及推進を図っております。

つきましては、「令和3年産米用水稻生産資材注文書」をお届けしておりますのでご利用下さい。



令和3年産 水稻・麦・大豆栽培の手引き



令和3年産 水稻用 生産資材注文書
申込期限 令和3年1月15日(金)まで